

第6次派遣ボランティア

H23.10.5～8 派遣

大船渡市で活動しました！

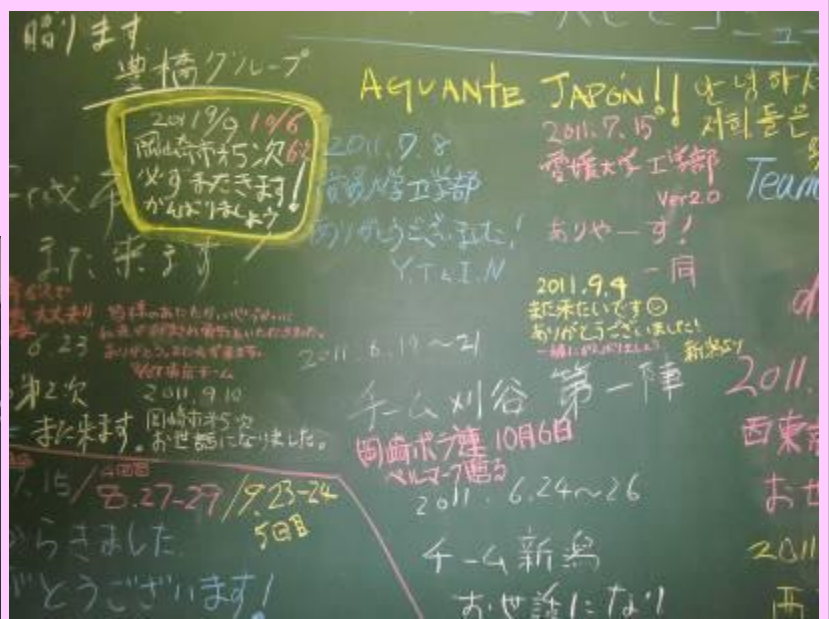
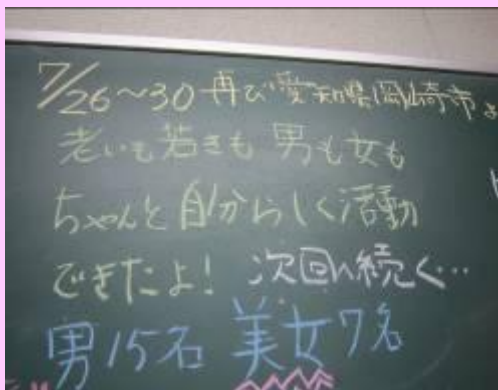
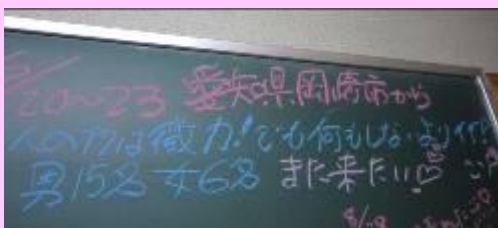
第6次の今回は、10月5日（水）～8日（土）の日程で派遣されました。

30歳から69歳までの19名のボランティアメンバーで岩手県大船渡市で活動を行いました。

岡崎市からのボランティアバスが初めて大船渡市を訪れたのが6月。それから数えること5回目・・・暑い季節を過ぎ、岩手県はずいぶん寒くなっています。宿泊をさせていただいている住田基地には、2次派遣チームからの軌跡が今でも確認できます。

発災してから10月7日までの間に大船渡市社協復興ボランティアセンター（9月に名称変更）で活動したボランティアは、24,066人との報告が出されています。そのうち岡崎市からのボランティアバスで派遣・活動された方が約100名です。

大変多くの方が「被災地のために何か役に立ちたい」という思いから、ボランティア活動のために被災地を訪れています。



ベルマークをお届けしました！



被災地のためのボランティア活動は、被災地を訪れないとできないというものではありません。こちらにしながらできる被災地の支援につながる活動もあります。

その1つがベルマーク収集です。

岡崎市ボランティア連絡協議会では、ベルマークを被災した学校の支援に充てるため収集の協力を呼びかけています。市内の小・中学校や県内外からお送りいただいたベルマークのうち、約32万点を大船渡市立越喜来小学校に寄贈されました。併せて岡崎小学校児童の書いた手紙、山中小学校からのビデオレターも届けられました。



【《ボラ連》中根会長、岩瀬副会長 《越喜来小》遠藤副校長】



【校舎3階の屋根まで津波が押し寄せた越喜来小学校】



山中小学校からのビデオレターを職員室にいらっしゃった先生方がさっそくご覧になっています。ビデオレターに込められた想い、ベルマークをお寄せいただいた多くの方々の想い…直接お届けすることができました。

岡崎市ボランティア連絡協議会は、これからもベルマークの収集を続けられます。



今は平地となっているところのがれき拾い。家屋床下に敷いてあった断熱材の片付けを行いました。岡崎チームは連日全員同じ活動となりました。岡崎チームが大船渡市を訪れるときは、なぜかいつも天気が良くないのですが、今回も活動初日は雨でした。

第6次派遣の直前に大船渡市社協復興ボランティアセンターから、「団体ボランティアは1日合計50名までの上限を設けます。以前のようにとにかく人数がほしいという活動が減っている。」という発表がありました。



チーム6